

には相違ありませんが然も其現實さるゝや必ず家政整理と子女教養との二方面を離れて存することはありません。従つて家庭なるものゝ完全なる理想は如何に家政は處理す可きか、如何に子女は教養す可きかに就て充分研究したる後に於て初めて成立す可きもので決して樂しき遊びや、たわひもなき戯れを夢みることに因て家庭を理想することは出来ないものであります。既に家政整理と子女の教養とが家庭理想の二大方面である以上は彼家庭を離れて雜風景な下宿屋生活乃至は牢屋の如き寄宿舎住居をして居る星やすみれのハイカラ女流に完全な家庭的理想を以つたものゝないとは明かな事ではありませんか。是に至つて吾人は今日のハイカラ女流者は到底良妻賢母の候補者たる資格なきものと斷言するに憚らざると同時に今後の

女子教育が今一層此方面に適切ならんことを望みます。此思想より論ずると云と彼高等女學校に於ける家事科中の育児法は餘りに狭く餘りに一局部に偏するものと云ふことが出来ます。吾人は尙進んで幼児教育、兒童教育の一般は勿論能ふ可くんば青年男女の監督指導論をも四ヶ年程度の高女學校に必須科として科せられんことを望むものであります。

貞一の日記(承前)(明治三十六年)

その母

四月廿日、夜眠る前、床の中にて、「貞ちやん、大きくなつたら、學校へいつて、學校の兄さんとお相撲とる、母さんも、大きくなつたら、學校へいつて、おすまふとる」といふ、貞一にして

は始めての長き御話なり。

四月廿一日、父の不在中、名入さんが、氣に入らぬ事をした時、「メー貞ちゃん顔でらん」といふて、にらむ、父が叱る時メー、父さんの顔でらんといふを思ひ出して其通りにいふなり。

便通なし、鼻少しつまる、

四月廿四日、黒き塗物の菓子器を見て、御客様の

御鍋といふ。

四月廿八日、母、今日は芝の阿部さんへ行ききて、歸宅後、短かさ竹切を見せて、これで、お向の兄さん、貞ちゃんをついたと、自分の顔をついて見せる、いたかつたかときけば、痛かつた血が出たといふ、(血が出たはおまけなり、痛ければ血が出るものと思ひ居るなり)

四月廿九日、朝より父母と、王子の印東に行く、

自轉車の前の方に、坐蒲團を結びつけて、それにまたがり、ハンドルにつかまり、父に押してもらつて行く、染井の墓地近くなりて、父も一所に乗り車を、馳すれば、後になりし母を呼びてやまず、またお迎へに来る、余り人のなき所はよるこびて乗れど、人が立ち止りて見れば、もう恥しくなつて、おひるくといつてきかす、康樂園(印東)へつきてからも、文子さんや、忠男さんが、チャホヤもてなして下さるのが、恥かしくつて、おうちへかへるゝとばかりいふ。

五月一日、指ヶ谷町を散歩する時、大工の家の障子の、赤く塗れるを見て、「サントー障子」といひ、又其近所の床屋の障子の、青さを見て、「二ト一の障子」といふ、流車の切符の、三等二等と聯合したるなり。

五月五日、名八さんと、外にて遊び、近所の子供の全し位のと、喧嘩して、取つ組み合ひを始む名八さんが、引き分けると、眞赤な顔して自分の持ち居りし山吹の枝にて、相手の顔を打つ。五月六日、午前父と自轉車にて、上野のことも博覽會に行き、おもちやの瀛車を見て、其所を動かす、また山の上より、停車場の方を見て、瀛車くといつて中々其處を去らうとはせず、漸くおやつの間來りしことを口實に、其所を去る、「瀛車サヨナラ」と、大聲に叫ぶ。近所の子供の、顔に腫物の出たるを見て、これこわい顔といふ。電車として遊び、「カーチャン動きなさい、ワタシ追ひかけるからといふ。ワタシといふ語の使ひ初めなり。

五月十日、午後二時過ぎ、地震あり母抱きて、庭に出でたり、後にて地震がひどいと御家が、つぶれるといひしに、「貞チャンの御家が、つぶれたら、海氣館おうちへ、行かなくちやならん」といふ、海氣館が中々に氣に見つたと見えて、いつも口癖の様にいふ。五月十六日、「貞チャン瀛車に乗つて、千葉へ行く」と見えなくなつてしまふ」といふ故、何氣なく「ソ〜!」と、母が答へしに、「行つちやいやいへ」といふ、湯屋の傍を通りし時、煙突を見て、大きな砲兵工廠といふ、何時でも、砲兵工廠の瀛笛がなると、砲兵工廠は何所であるのとさく瀛笛を砲兵工廠といふものと思ひ居るなり、其の瀛笛は煙突で鳴ると思ひ、煙突を見て大きな砲兵工廠といひしものらし。

五月十九日、今日午前十一時、名入さんの神戸に  
行くを送るべく、父母と電車にて、新橋まで行  
き、父と流車にて品川まで送る、「ナーチャンは  
何所へ行く」と問へば「コーベ」といひ、「貞チ  
ヤンは」といへば、「シナガハ」といふ、品川の  
停車場にて、流關車より水の出づるを見て、「キ  
カンシヤ、シツコ」(流關車などは玩具の流車に  
て其形を熟知し居るなり)といひて余程面白く  
感じたらしく、暫らくながめ居たり、流車中に  
て「これどこへ行く流車か」と問へば、品川へ  
行く流車と答ふ、「海氣館へ行くのはどの流車」  
と問へば「千葉へ行く流車」と答ふ、(ついで)  
近頃貞一の言ふ面白きことは、誰でも自分に氣  
に入らぬことをする時は「コラメー、母ちゃん  
(或は父さん)怒つてチョーダイ」といふ。お菓

子をねだる時は「も一つも一つといはないから  
一つチョーダイ」などいひ、貞一の持つてるも  
のを側から、貞ちやん頂戴などいへば「メー、  
チョーダク、ナイ」といつて拒絶し、御機嫌の  
よき時は、太鼓をたゝいて「ナムメウホーレン  
ゲンギョ」といつて廻る、これは名入さんのし  
て見せたるを真似るなり。お客の來た時は、不  
機嫌にて困つた顔をすれどさてお返りの時分に  
なると、急に元氣附いて「サヨナラ」とか「グッ  
ドバイ」とか思ひ入れになつていふ、三の數の  
觀念は確に出來たらしく食後の磯部せんべいを  
二枚とか一枚とかにすれば「サンマイシヤナク  
ツテハイカン」などいふ。四以上は分らぬ様な  
り。